

2015年新春TOPインタビュー



オリエンタル
コンサルタンツ

野崎 秀則 社長

顧客の信頼獲得が重要に

オリエンタルコンサルタンツを中核とするACKグループの業績は「前期(2014年9月期)は売り上げ、利益とも過去最高だった。良い方向に向かっている」。中期経営計画「ACK2013」も順調に進んでいる。一方で、好調な受注環境が続くのは、あと1、2年と予測している。事業量の減少を見据え、顧客の信頼をいまから獲

得しておくことが重要と強調する。中計も「もう一度足元を見つめ直す」と気を引き締める。ことしは、防災・減災、インフラの保全、地方創生の3つのニーズがあるとみる。「これらに対してわれわれが答えを出していけるか大事な1年になる」

ACKグループは、今期で創業10周年を迎える。CSV(共通価値の創造)の考え方に基

具体例として、千葉県柏市と共同で開始した交通安全の実証実験プロジェクトを挙げる。同市の公用車にドライブレコーダーを取り付けるとともに、各種付加サービスを実施する。公用車と地域の交通事故削減を目指すとともに、走行データを基に危険箇所の抽出・対策立案、ヒヤリハットマップを作成するという新たな取り組みだ。「事業の掘り起こしを狙う」。

き、「CSR(企業の社会的責任)版重点化プロジェクト」に着手。事業活動を通じて社会貢献を果たしていく。社会貢献と事業活動を連動させながら、グループを挙げて、インフラと建設コンサルタンツの重要性を市民に理解してもらう計画だ。

として進めていくが、CSRの観点でみると、市民とも関わりが出てくる。ACKグループとオリエンタルコンサルタンツを認知してもらえると同時に、国民の理解につながる。10、11期の2年間を重点期間と位置付けて取り組みを進め、社員のや

りがいにもつながると考える。海外展開は、オリエンタルコンサルタンツの海外事業部門を分社化・独立させたオリエンタルコンサルタンツグローバルが昨年10月に始動した。「基本はODA(政府開発援助)だ。円借款の仕事も増えている。そこを基本として努力していく」。中期的にはアジア、アフリカなどの現地政府の発注、民間需要の掘り起こしを狙う。

国土交通省が打ち出しているインフラメンテナンス維持・管理の民間資格活用は、「建設コンサルの調査・設計の資格に着目していただいているのはありがたい」とし、建設コンサルが社会的に認知されるため非常に良い施策と評価する。「そこに恥じないよう品質確保など、価値を提供することを再認識する必要がある」